

水で蘇る都市の実践現場から

復活した寝屋川の魅力再発見を進める

ねや川水辺クラブ

ナビゲーター
ねや川水辺クラブ会長
本多 政雄
Masao Honda

各方面の専門団体が集まった
クラブ

大阪の北郊、寝屋川市の中心部を流れる寝屋川は、その名のとおり市のシンボルともいえる川だ。かつては、治水のためにコンクリートの三面張りにされ、そこに下水が流れ込む、汚れた典型的な『都会の川』だった。しかしその後、公共下水道の普及や、淀川からの浄化水の放出などによって水質は次第に改善されてきた。

再生した寝屋川の魅力の再発見に努めているのが、『ねや川水辺クラブ』である。会長の本多政雄氏は、『京阪』『寝屋川市』駅前で、会員のひとりが、春に『イイ』の集団産卵を発見したことをきっかけに、寝屋川の水質が改善されたことに気付きました。淀川からの浄化水にまぎれたのでしょ、う、さまざまな



春に行われた川下り。船底の浅い「Eボート」を中心に様々な船が参加する。寝屋川市長も加わるなど、年々、規模は大きくなっている

生物の活動も確認できました」と言つた。

寝屋川市では、「こつした情報を市民に知らせ、また寝屋川を市民生活の中に取り込めるように再生することを目的とする」「寝屋川再生計画策定」のため、「寝屋川再生ワークショップ」を進めてきた。このワークショップをきっかけに同クラブは誕生したが、その最大の特徴は、「寝屋川市自然を学ぶ会」、「水辺に親しむ会」、「淀川愛好会」、「寝屋川青年会議所」、「寝屋川市役所」など、これまで独自に活動を進めてきた団体のメンバーや個人で、特に寝屋川の自然環境改善活動に意欲的な方が集まっている点だ。「既に各方面で専門的な活動を行ってきた人たちの能力を活かすことができる部会を設けて、成果を挙げています」。

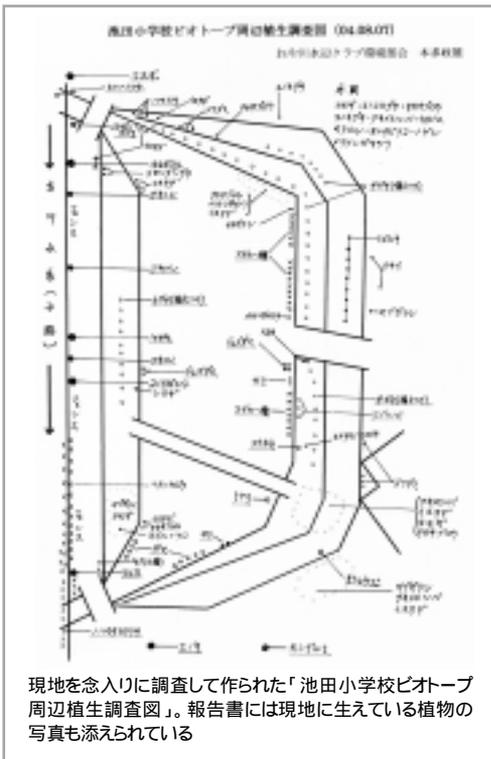
同クラブの活動の中で、特に注目を浴びているのが春に行われる舟下りのイベント。これはかつて大阪で行われていた「野崎まいり」にちなんで、底の浅い舟で沿岸の桜の花見をしながら野崎観音をめざすもので、「舟のこぎ手と花見客の間で、話をしたり酒がふるまわれたりして、まさに昔の花見が復活できました」。また二〇〇五年には、京阪「寝屋川市」駅前に親水空間が誕生する予定（など）その成果は確実に現れている。親水空間が増え、川が身近になることで、都市における川の魅力に市民が気付けば、さらに寝屋川が美しくなっていくことが期待できよう。

(文責・CEL編集部)

CEL

ねや川水辺クラブ事務局

〒572-0001 寝屋川市成田東町20-18 無量図書館内
TEL・FAX:072-831-3854



現地を念入りに調査して作られた「池田小学校ビオトープ周辺植生調査図」。報告書には現地に生えている植物の写真も添えられている



今回のナビゲーターを務めてくださった本多政雄「ねや川水辺クラブ」会長



2004年10月10日に行われた市民による寝屋川の清掃活動。年に2回、春と秋に定期的に行われている



寝屋川の源流を知るために、山を歩くハイキングなども行われている



「川を再生させるためには、まず山から」ということで、クラブ員の手で、源流域の山での間伐活動も行われている



京阪「寝屋川市」駅前に建設中の親水空間。環境に配慮した設計になっており、動力部の電気も駅前のロータリーに設置される風力発電や太陽光発電で賄われる



人間が植栽したものとは違い、その地に適した植物が根付いた寝屋川河岸の緑。本多代表のような専門家が見ると、その豊かさがよく分かり、それを守るために、工事などを行う際は埋め戻しされることもあるといふ